

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	令和元年8月26日	評価結果市町村受理日	令和元年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな土地柄を活かして ①四季折々の楽しみを見つれたり、生活リハビリに活用(薬草採り、野菜、山菜処理など)支援します ②地域行事にも参加し、ふれあいの場を多く作るように努めます ③個々の能力を引き出し、活用出来るように努めます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校となった小学校を改修し、地域に根付いた運営をしている事業所である。自家菜園での収穫物や近隣住民からの新鮮野菜を使って作る食事は、利用者の楽しみと健康の源にもなっている。職員は、利用者の生活習慣やこだわりを大切に、共に薬草について学びながら加工を行ったり、体操や掃除、生け花や作品作り等、様々な生活リハビリを支援している。今年度から始めた認知予防イベントで、エステシャンによるマッサージやネイルケアは、利用者の生き生きとした笑顔を引き出している。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りに努め、職員もまた、チームワーク良く協力し合いながら、利用者の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな環境で楽しく余生を過ごせるようにと理念を共有し、入所者と職員が力を合わせて、家庭的なホーム作りを目指している	職員は、理念の意義を常に心に留め、職員会議で確認し合っている。利用者が住み慣れた地域の中で、残された能力を活かし、個々のやりたい事を継続しながら、穏やかで心豊かな生活が送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々からの野菜の提供等や散歩の際に声掛けを頂ける関係を大切にしている	自治会の一員として、地域の祭りや防災訓練に参加し、事業所のイベントには、地域の人を招いている。近隣住民から、野菜や花の差し入れがあり、日常的に言葉を交わしている。様々なボランティアや小学生との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	12月には、今年1年の感謝を込めて地域の方々を招待し、代表自らサンタクロースに扮し、地域の方々との交流を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年3回の会議には所轄の警察官の出席をお願いし、地域の情報交換を行っている。会議のうち1回は家族会を兼ね、事前に配布したアンケートの結果を基に話し合いを行っている	運営推進会議は、3か月ごとに開催し、年に1度、家族会も兼ねて行っている。事業所の活動や利用者の状況を報告し、災害対策、料金の改定、「美容で脳を活性化イベント」などについて、意見を交わしている。出された意見や要望をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、普段から協力を得ている区長や地域の有識者の参加も得られる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、飛騨市本所担当の方々、河合振興事務所の担当の方にも参加して頂いている。日々、地域包括支援センターとの連絡や相談を行っている	市の担当者や振興事務所とは、その都度、相談しながら、助言を得ている。また、市主催の研修会や会議には積極的に参加している。「薬草プロジェクト」ではその一役を担い、協力関係作りに努めている。裏山の砂防堰堤の公共工事も現在、進行中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修を行い、職員間の共通理解として、身体拘束や虐待をしないケアを実践している	身体的拘束等の適正化検討委員会を設置し、3か月毎に会議を開催している。職員研修では、身体拘束・虐待防止について具体例を挙げて学んでいる。ホームの出入りや室内の移動など、利用者の自由な行動を見守り、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	しましまハウス3施設で情報交換し、施設内での委員会、研修を年3回以上行い、防止に努めている		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知障害のため判断能力が不十分であったり、自分の意思や権利を主張できない人によって変わって援助者が権利主張や自己決定を支援したり代弁するシステムがある事を理解し、必要な御家族にこの制度がある事をお知らせします		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金、重要事項説明書等、十分な説明を行っている。入所後、1ヶ月面談を行い、現状を報告、御家族様の意見等を聞いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議、家族会、家族へのアンケート等にて、要望・意見を聞き、運営に生かせるよう努めている	毎月の便りに、利用者の写真とメモを添えて、家族に郵送している。家族の訪問時にも、利用者の状態を伝え、意見や要望を聴いている。また、家族会の際にもアンケートを実施し、家族の思いと要望を把握し、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経理担当者、管理者は、日々のミーティング、月例ミーティング等にて、職員からの提案を聞く場を設け、反映させるよう努めている	管理者は、問題があれば、その都度話し合いの場を設け、職員の意見や要望を聞きながら、改善に繋げ、職場環境作りに努めている。また、職員同士は、互いの状況や都合を思いやり、休憩時間や勤務調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のミーティング・月例ミーティング等、職員の意見を出し合い、経理担当に伝えている。福利厚生の一つとして、タッチケアに参加している。職員からは、好評を得ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催、県主催、地域の病院主催、グループホーム協議会主催等、各種の研修に積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域、グループホーム協議会主催のケアマネ会議へ参加し、困難事例などを持ちより意見交換をする等して、サービスの質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の担当ケアマネさんからの情報をもとに、御本人と面談し、本人の困っている事・不安な事・要望を知り、信頼と安心を得られる関係を築くよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安・疑問を早期に取り除けるよう、電話や面談にて、コミュニケーションをより多く取るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の担当ケアマネさんからの情報をもとに、御本人と御家族に対して必要な支援を、職員で話し合い、支援内容を見極めて支援します		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに役割りを持っていていただき、暮らしにも張りを持ち、生活していく同志という間柄を持って頂くよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を、電話やお便りで御家族に報告し、来所された際には日々の様子をご説明し、一緒に御本人を支える関係を保つよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御自宅付近の地域の事を話題にしたり、御家族様にも訪問・面談をお願いする支援を行っている	友人や近隣住民、駐在員、理容師が毎日のように訪れており、出来る限り、馴染みの関係を継続できるよう支援している。職員と一緒に神社や「もみじカフェ」に出かけたり、家族や親戚とかけつけ医に受診後に外食や買い物をする人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自宅付近、同地区の方々と、席を同じにして、共通の話題を見出し、孤立感を無くすように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、御家族様の相談にのれるよう支援努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人や御家族の悩みや思いを聞き、隠れている要望を把握するよう努める	職員は日常の関わりの中で、利用者の思いを把握している。新たに取り入れたエステシャンによるマッサージやネイルケアでは、思いがけない反応や本音を聞くことが出来た。家族の協力も得ながら、より楽しい暮らし方を検討している。	新しい試みの中で、利用者一人ひとりの思いや隠れた能力を見出すことができた。今後も、その人らしい暮らし方の支援を継続できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人が「できる事」「出来ない事」を本人や家族から聞き取り、入所前の担当ケアマネさんや主治医の診断書などの資料などから把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の1日を支援経過記録に残し、時々に必要な状況を毎日の業務日誌に記入して申し送り、職員全員が現状を把握できる様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々担当者が毎日の経過記録を残し、毎月開催される月例ミーティングで話し合いを行い、御本人の困っている事を導き出すよう努めている	介護計画は、本人・家族の意見や要望を聞き、介護記録と職員の意見を踏まえ、現状に即した計画を作成している。本人の生活習慣を活かし、目標に向けて楽しく暮らせるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入している支援経過記録やバイタル表で、毎日の健康状態を把握し、レクリエーションや作業活動への誘いを決めるなど実践に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々御本人や御家族の状況に応じて、医療や社会資源との連携や、その時々に必要な柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている運動会への参加、介護サポーター制度の受け入れ、地域ボランティア活動等、楽しむ事が出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診の際には、日々の情報(体温・脈拍数・血圧・排便状況等)や前回の受診後の変化等、情報を提供している	ほとんどの人が、馴染みのかかりつけ医を継続し、受診は家族が担っている。協力医の往診はないが、職員が受診同行している。歯科は状態に応じて往診での治療も可能としている。急変時には主治医に連絡し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師の配置は無いが、医療は掛かりつけ医の定期受診、各提携医療機関、相談窓口等に問い合わせを行い、速急に対処出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室、相談窓口など、直接出向いて、今後(退院後)の支援について相談、助言をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、御家族様 施設、医療関係と、十分話し合いながら、方針を共有し、支援するように取り組んでいる	重度化した場合の支援は、ホームで日常生活ができるまでとし、家族の同意を得ている。早い段階から本人・家族・関係者で話し合い、他の施設への移転を含め、最善の選択ができるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の、夜間連絡網を作成。職員は応急手当の訓練を行い終了書を頂いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、火災通報訓練、救急搬送訓練等、各種行っている。又、連絡網の確立、地域との連絡網も確立して協力体制を築いている	災害訓練は、地域住民も参加し、火災・地震・夜間避難も想定して実施している。防災の日には、地域の防災組織と連携して、2階への垂直避難訓練も行なっている。食料品や手作り防災頭巾も用意している。現在、砂防堰堤工事が進行中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、職員間の共通理解を持ち、細やかな対応に心がけている	排泄や入浴時には、特に、羞恥心に配慮し、利用者の自尊心を損なわない対応を心がけている。お化粧品や衣類の選択など、利用者のこだわりを受け止め、楽しみに繋げながら、本人本位の暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のアセスメントや職員間のモニタリングを行い、自己決定が出来るように支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールをこなすのではなく、一人ひとりの思いを尊重し、希望に沿って支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人、御家族様の意思を尊重し、寄り添いながら、個別に支援している。御本人のこだわりの化粧品についても御家族と相談しながら納得して頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材について(特に山菜、地産食材)話題に取り上げたり、食事が楽しめるよう努めている。又、食器を工夫したり、介助の仕方にも工夫している	近隣住民や職員が持ち寄る新鮮野菜、菜園の収穫物も利用し、彩り豊かで家庭的な味付けの食事を提供している。利用者も野菜の皮むきや台拭きなどを手伝っている。職員と一緒に同じものを食べながら、楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎回の食事量の把握、体重管理を行い、体調管理を行っている。又、午前午後に水分摂取の時間を取り水分補給にも注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔衛生を行っている。洗面具の消毒や義歯の洗浄も行っている		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のミーティングを細目に行い、排泄状況を職員間で共通理解し自立支援に取り組んでいる	個々の排泄パターンに合わせ、トイレに誘導し、自立を支援している。夜間は、安全の為に、ポータブルトイレ使用の人もあるが、出来る限り、トイレでの排泄を支援し、排泄用品の利用者負担の軽減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、食事の摂取量の状態、食材の内容等、自然排便を促すよう、多岐にわたって個々の支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好み、タイミング等、職員間で認識し、それぞれが気持ちよく入浴して頂けるよう支援している	大浴槽に利用者2人の場合は、複数介助で安心・安全な入浴を支援している。時間や順番、入浴のこだわりなども、柔軟に受け入れている。浴室も広く、適切に室温調節を行い、ゆったりと楽しく入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが、自分のリズムで休息したり、眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、誤嚥、飲み残しが無いように、職員間共通認識とし、確認に努めている。治療状態の変化等、医療機関へ情報提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を重視し、楽しみながら行えるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの体調、希望に沿い、戸外へ出られるように支援している。遠出の場合は御家族様の確認や希望も考慮するよう努力している	毎日のように戸外に出て、広い庭を散歩したり、玄関先の椅子に座り、景色を眺めている。地域のイベントやバラ園に出かけて、外食を楽しんだり、家族の協力を得て、一時外泊、買い物、墓参りなどに出かける人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際の希望品、移動販売車が来た時には、御家族様相談のうえ、買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の意見を尊重し、電話をかけて頂いたり、手紙の投函の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には、入居者様に分かりやすいように、又、迷いの無いように掲示に配慮している	共用空間は広く開放感がある。居間や廊下には、季節ごとの共同作品や笑顔の写真を掲示し、随所に野の花を飾っている。居間にはゆったりとしたソファ、談話室や畳コーナーにも椅子を置き、利用者が好きな場所で落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間においては、それぞれの性格や、身体状況に応じ、過ごす事が出来るように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物をいかし、安全に不安なく過せる様に努めている	掃除の行き届いた部屋の入り口には、手作りの表札がかけられ、使い慣れた家具類を安全に使いやすく配置している。iPadを持ち込んでいる人もあり、ぬいぐるみや家族の写真、花などを飾り、落ち着いて過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居年数により介護度が上がり、今までの対応では不可能になってきている場面が、多々出てきているため、より安全な生活が送れるように工夫している		